

Ⅱ 国語科の問題と 結果・分析

● 分析ページの構成と見方について

(1) 「出題のねらいと評価」について

「大問・領域」には「読むこと」(文学的な文章と説明的な文章)、「書くこと」、「言語事項」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」を含めた観点に該当するものを○印で示した。

(2) 「正答と主な誤答例」について

主な誤答例については、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いものを示した。

(3) 「結果の考察と分析」について

- ・ 大問ごとに設問・正答・結果等について左ページに、その考察(概要・指導のポイント)について右ページに記した。

(4) 「まとめ」について

本調査結果の概要と、調査結果を踏まえた指導上の改善点について記した。

1 出題のねらいと評価

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 国語への関心・意欲・態度 |
| 2 | 話す・聞く能力 |
| 3 | 書く能力 |
| 4 | 読む能力 |
| 5 | 言語についての知識・理解・技能 |

大問・ 領域	小問	設問のねらい	評価				
			1	2	3	4	5
① 読むこと (文学的 文章)	問1	登場人物の行動に関わる比喩表現を指摘することができる。				○	○
	問2	表現に即して登場人物の心情を読み取ることができる。				○	
	問3	登場人物に関わる具体的な描写を指摘することができる。				○	
	問4	表現に即して登場人物の心情を読み取ることができる。				○	
	問5	表現に即して登場人物の心情を読み取り、自分の言葉で書くことができる。	○		○	○	
② 読むこと (説明的 文章)	問1	表現に即して具体的な内容を読み取ることができる。			○	○	
	問2	表現に即して内容を整理することができる。				○	
	問3	内容を端的に表す語句を指摘することができる。				○	
	問4	文章の構成を正しくとらえることができる。	○			○	
③ 言語事項	(1)	「学年別漢字配当表」に定められた漢字を書くことができる。					○
							○
							○
							○
	(2)	「学年別漢字配当表」に定められた漢字を読むことができる。					○
							○
							○
							○
	(3)	熟語、慣用句、ことわざ、故事成語、敬語について、意味や用法、場面に注意しながら適切に使うことができる。					○
							○
							○
							○
④ 書くこと		条件にしたがって自分の考えを書くことができる。	○		○		

2 正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答	主な誤答例
① 読むこと 文学的文章 の読解	問1	まるで迷	迷子にな、聡子はお、うろうろ、地下食品
	問2	ウ（こっそり見に来た…見られたこと）	エ（塾に行かなかったのをお父さんに…）
	問3	水色の作業着に長ぐつ	腰をかがめてこっそりと、仕事を抜けだして来てる、長ぐつをかばかばさせて、水色の作業服に長ぐつ
	問4	イ（お父さんがなにも…気づいたから）	ア（やはり塾に行かなければ…）
	問5	A「うれしくなり」「心がやすらぎ」等 B「がんばろう」「勉強にうちこもう」等	A ハッとし、反省し、考え直し、情けなくなり B 塾に行こう、家族を大切にしよう、素直になろう、しあわせだ
② 読むこと 説明的文章 の読解	問1	弾力性に富む（弾力性に富み） 切れにくい 熱にも強い	七種類もの糸、種類が多い、壊れない強度 粘着性 弾力性
	問2	ア 同心円状	同心円、ぐるぐる巻き
		イ 太（い）	細（い）
		ウ 細（い）	太（い）
		エ 粘着性	弾力性
	問3	スーパーハイテク糸	スパイダー・シルク、鋼よりも四倍も強く、ナイロン製の釣り糸
③ 言語事項	問4	ア（① ②③④⑤ ⑥⑦ ⑧）	ウ（① ②③④ ⑤⑥⑦ ⑧）
	(1)	1 経験	敬験、徑験、経陰
		2 順序	準序、順予、順除
		3 許（し）	計（し）、緩（し）
		4 険（しい）	検（しい）、剣（しい）、巖（しい）、危（しい）
	(2)	1 くちょう	こうちょう
		2 きょうちゅう	むねなか、しんちゅう、むなもと、きょうじゅう
		3 そな（える）	た（える）、び（える）
		4 はんせい	はんしょう
	(3)	1 イ（関心）	ウ（常識）
		2 エ（五十歩百歩）	イ（推敲）
		3 イ（方法）	ア（種類）
		4 ウ（父が参りました）	ア（父がいらっしゃいました）
④ 書くこと	【誤答傾向】 （略）		

単位：%

大問・領域	小問	問 題	正 答	市の正答率	自校の正答率
① 読むこと 文学的文章	問1	お母さんをさがす聡子の様子が比喻(たとえ)を用いて表されている一文をさがして、初めの四字を書きぬきなさい。	まるで迷	54	
	問2	聡子はどんなことが気まずかったのか ア 嫌いだったお父さんに突然話しかけられたこと。 イ にやにや笑いながらお父さんに馬鹿にされたこと。 ウ こっそり見に来たのをお父さんに見られたこと。 エ 塾に行かなかったのをお父さんに知られたこと。	ウ (こっそり見に来たのをお父さんに見られたこと)	83	
	問3	お父さんのかっこうが具体的に書かれている部分を文章中からさがして、十字以上十五字以内で書きぬきなさい。	水色の作業着に長ぐつ	67	
	問4	聡子がハッとした理由 ア やはり塾に行かなければならないと思ひ直したから。 イ お父さんがなにも知らないと思っていたのは間違いだと気づいたから。 ウ 自分たちがそこにいるのをお母さんに知られたらたいへんだと感じたから。 エ お母さんとお父さんの仲が悪くなりそうだと不安になったから。	イ (お父さんがなにも知らないと思っていたのは間違いだと気づいたから)	40	
	問5	この時に聡子が考えたこと 家族の愛情を感じて (A)、 自分も改めて (B) と思っている。	「うれしくなり」 「心がやすらぎ」等 「がんばろう」 「勉強にうちこもう」等	30 38	

(1) 結果の概要

① 資料文について

小学校6年生の聡子はあたたかい家庭の愛情に包まれて生活しているにもかかわらず孤独を感じていた。家族はバラバラだと思いこんでいた。しかし、聡子が見えないところで家族の一人ひとりが努力し、また、お互いを気づかっている事実を知り、それまでふさいでいた聡子も前向きな気持ちを持てるようになる。

友人関係などの悩みを抱える思春期特有の不安定な情緒は、中学2年生の実生活にほど近く、主人公聡子の心情には迫りやすい内容であると言える。また、ささいなことから親に対する不満もこの時期には抱きやすい。それまでバラバラだと思っていた家族が、実は目に見えない糸で結ばれていたことを聡子を実感するというこの文章の終末を、生徒は共感しながら読み進めることができる。

② 設問ごとの結果

- 【問1】「まるで…みたいに」という典型的な比喩表現を指摘する設問である。文を頭から書き抜けなかったという誤答や、比喩表現と擬態語との区別がついていない生徒も少なくなかった。文章読解の指導において、有機的な言語事項の指導を心掛けたい。
- 【問2】「気まずくて、くちびるをかんだ」聡子の置かれた場面の状況までの読み取りで終わってしまっている生徒も多かった。正確に読み取るためには、表現に即して登場人物の心情まで踏み込んだ丁寧な読み取りが必要となってくる。
- 【問3】父親の服装を具体的に描写している表現を書き抜かせる問題である。心情表現だけではなく、服装や仕草または風景描写などから登場人物の心情を読み取るという学習活動は、日頃の授業でぜひとも大切にしたいものである。
- 【問4】父親とのやりとりをきっかけに主人公が親子関係を改めて見直そうとする場面である。本人の知らないところで父親が母親を見守っていることを知り、自分の知らないところで父親が聡子を見守っていることもあることを連想する聡子の心情まで読み取ることを求めた。「ハッとした。」という表現から、聡子の視野が開かれた瞬間を読み取ることができる。まさに、表現に即した読み取りである。
- 【問5】最後の場面で聡子を感じている安堵感と前向きな気持ちを自分の言葉で書かせる問題である。無答率が高い問題であった(A=33%、B=28%)。ここから、生徒はたとえ短い言葉であっても、読み取った内容を自分の言葉で書くことに抵抗を感じていることが分かる。普段から「経験をふまえて書きなさい。」「具体的な例を入れて書きなさい。」といった設問に慣れる必要がある。また、Bに「塾に行こう」という誤答が多かったのは、表現に即した心情の読み取りをせずに、「塾を休んだら親に怒られるに決まっている…」と場面から自分の生活実態へ安易に結びつけてしまったためと思われる。

(2) 指導のポイント

○心情理解に関わる具体的な表現に着目することを意識して指導しましょう。

○読み取った内容を、客観的に自分の言葉で表現する学習を大事にしましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答		市の正答率	自校の正答率
② 読むこと 説明的文章	問1	クモの糸がカイコの糸よりすぐれている性質を、それぞれ六字以内で三つ書きなさい。	弾力性に富む (弾力性に富み)		69	
			切れにくい		84	
			熱にも強い		82	
	問2	クモの糸の性質についてまとめた次の表中の(ア)～(エ)に適する言葉を、文章中からさがして書きなさい。	ア	同心円状	91	
			イ	太(い)	94	
			ウ	細(い)	95	
			エ	粘着性	92	
	問3	クモの糸がすぐれた特徴を持っていることをよく表している九字の言葉を文章中からさがして書きぬきなさい。	スーパーハイテク糸		41	
	問4	この文章は大きく四つのまとまりに分けられます。正しく分けられているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号を書きなさい。 ア ① ②③④⑤ ⑥⑦ ⑧ イ ①② ③④⑤ ⑥ ⑦⑧ ウ ① ②③④ ⑤⑥⑦ ⑧ エ ①② ③④ ⑤⑥ ⑦⑧	ア (① ②③④⑤ ⑥⑦ ⑧)		36	

(1) 結果の概要

① 資料文について

クモの糸がいかにすぐれているかを説明している文章である。カイコの糸との比較から始まり、用途に応じて使い分けられている数種類の糸のそれぞれの性質まで、詳しく述べられている。

科学的な専門用語も少なくはないが、段落構成も比較的分かりやすく、中学校2年生に進級したばかりの生徒にとっても、クモの糸の特徴や不思議な性質について、興味深く読み続けることのできる内容である。

② 設問ごとの結果

【問1】「カイコの糸よりすぐれている性質」を読み取る問題である。冒頭の①段落にある「カイコのそれより」という表現に着目すれば、段落内から容易に読み取れる問題だが、②段落以降から抜き出す誤答が多かった。設問中の言葉(ここでは「カイコの糸より」)を大事にし、表現に即した正確な読み取りの方法(技能)を確実に身に付けさせたい。また、文章中から書き抜く問題でないとはいえ、「弾力性に富む」という言い方を「弾力性がある」に書き換えてしまう誤答が少なくなかった。「富む」という言葉になじみがなかったためもあるだろうが、意味が若干変わってくることに気付く言語感覚を大切にしたい。

【問2】クモの糸の性質を文章中から正確に読み取り、縦糸と横糸の性質と特徴について表にまとめさせる問題である。③段落内に書かれる対照的な語句を取り出すという平易な問題であるが、④段落内の言葉を書いたり、安易に表中の言葉を用いたりする誤答も見られた。

【問3】冒頭に出てくる「スパイダー・シルク」は、クモの糸の英訳であってすぐれた特徴を表す言葉ではない。また、特徴を具体的に表しただけの「鋼よりも四倍も強く」や、ただ単に材質を表した「ナイロン製の釣り糸」等の誤答も少なくなかった。表面的な「九字の言葉」を答えた生徒が多いと思われ、「すぐれた特徴を持っていることを表す言葉」という名詞で答えさせる設問意図を理解していない誤答もあった。

【問4】文章全体の構成をとらえる問題である。⑤段落は、初出の「フィブロン」という言葉が繰り返されるために、一見すると新しい内容の始まりにも見える。しかし、段落の初めの言葉に着目すれば、「たとえば」(③段落)、「さらに」(④段落)と展開した後の「このように」(⑤段落)なので、⑤段落が前段落までをまとめる段落であることを読み取るのはそう難しくはない。⑥段落の冒頭に「また」等の接続語があればもっと容易に構成をとらえられたのだろうが、接続語が用いられていなくても、文章構成を正確にとらえさせる技能も意識して身に付けさせる必要がある。

(2) 指導のポイント

○表現を手がかりにした論理的な読み取りを意識して指導しましょう。

○構成を正しくとらえさせるために、接続の言葉や段落の初めの言葉に着目させましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答	市の正答率	自校の正答率
③ 言語事項	(1)	1 いろいろな <u>ケイケン</u> をしました。	経験	68	
		2 <u>ジュンジョ</u> 正しく並べて下さい。	順序	57	
		3 あなたのあやまちを <u>ユル</u> します。	許(し)	57	
		4 <u>ケワ</u> しい山に登る。	険(しい)	55	
	(2)	1 やさしい <u>口調</u> で話す。	くちょう	94	
		2 彼の <u>胸中</u> はどんなものか。	きょうちゅう	46	
		3 地震に <u>備</u> える。	そな(える)	91	
		4 生活を <u>反</u> 省する。	はんせい	95	
	(3)	1 「無」をつけて反対の意味のなるもの ア 可能 イ 関心 ウ 常識 エ 提出	イ(関心)	91	
		2 「逃げたことには変わりがない」という意味で 使われることわざ ア 矛盾 イ 推敲 ウ 一石二鳥 エ 五十歩百歩	エ(五十歩百歩)	69	
		3 「打つ手がない」の「手」が表す意味 ア 種類 イ 方法 ウ 手間 エ 方向	イ(方法)	87	
		4 「父が来た。」を敬語で正しく表現する場合 ア 父がいらっしゃいました。 イ 父がおいでになりました。 ウ 父が参りました。 エ 父が来られました。	ウ(父が参りました)	32	

(1) 結果の概要

① 設問の意図

漢字の読み書きは、小学校段階での漢字がどの程度定着しているかを見るために「学年別漢字配当表」の中から8題を出題した。また、語句・語彙については、日常生活で用いられる慣用句や中学校1年生で学習した故事成語等の既習事項を中心に出题した。なお、敬語については、生徒の日常を意識した場面を設定して出題した。敬語は中学校では第3学年になるまで学習機会を持たないが、実は小学校6年生の学習内容でもある。ここでは、既習事項の出题としてとらえている。

② 設問ごとの結果

【順序】「序」に関する間違いが多かった。「まだれ」を除いた「予」や「矛」という誤答があり、部首の知識が不足している傾向も感じる。

【許します】言語事項の問題では無答率が最も高かった(31%)。傍の部分「午」ではなく「干」や「牛」になっている誤答が少なくなかった。「許可」という熟語にすれば、正答率は少し高くなるのだろうか。

【険しい】無答率も高く(24%)、正答率も低い問題であった(55%)。「検」「剣」という誤答が多かった。一定時間内に形の似た漢字を書かせたり、傍の同じ漢字を書かせたりするような、ゲーム的要素を含んだ言語事項の学習も効果的である。

【胸中】漢字の読み書きの問題では最も正答率の低い問題であった(46%)。「胸」という漢字は知っていても「きょう」とは読めなかったり、「胸中」という言葉が生徒の言語生活の中に存在していなかったりすることが原因と考えられる。漢字の習得については、音読み・訓読みの両方を意識させたり、生活に密着した熟語として覚えさせるなど、様々な工夫を試みたい。

【五十歩百歩】故事成語の学習指導は、教科書に出てくる語句を覚えさせることが目的ではない。故事成語の成立事情を知り、言葉の持つ普遍性や歴史的価値に気付かせることである。なお、既習事項というのは、教科書に出ていたか否か、扱いが大きかったか小さかったかで内容が決まるものではないし、教科書に載っている言葉そのものを指すのではない。したがって、故事成語を学習した後で、資料集やインターネット等を用いて他の故事成語を知ろうとすること、知りたいと思わせることこそが学習指導の本来の目標であり、それがすなわち、国語への関心・意欲・態度と呼べるものである。今後も多くの語彙の獲得を目指して指導の充実を目指したい。

【打つ手がない】文章読解の中で行われる語句・語彙指導は、系統性・継続性に不安が残るものである。しかし、だからこそ授業(教材)のあらゆる場面で指導したり、生徒相互に指摘し合うような授業が望ましいと言える。「手」→「手段」→「方法」という連想も成り立つ比較的易しい問題であった。

【父が参りました】敬語の学習は日常生活で経験的・継続的に学習することが望ましい。生きてはたらく言葉の指導を意識して、敬語に接する機会が多くなる中学校1年生から段階的に指導する必要がある。小学校で学習した内容、日常生活で経験的に学習した内容を整理した上で、相手や場面に応じた適切な敬語の使い分けの指導に努めたい。

(2) 指導のポイント

- 語句・語彙指導は、国語への関心や意欲を高めることをめざして指導しましょう。
- 敬語を含む言葉遣いの指導は、生徒の言語実態を把握しながら段階的に行いましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答	市の正答率	自校の正答率
② 書くこと		最近の新聞やテレビ・インターネットなどで報道されたニュースの中で、あなたが興味を持ったことや関心を持ったことを一つ取り上げ、そのことについてあなたの意見を次の注意に従って書きなさい。 【注意】 ① 原稿用紙には題名、氏名を書かず、本文より書き始めること。 ② 原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ③ 八行以上で書くこと。 (十五行で書ききれなかった場合は、欄外に書いてもかまいません。)	(略)	66	

(1) 結果の概要

① 資料について

最近報道されたニュースの中から興味や関心を持ったことを一つ取り上げさせて、意見を書くという問題である。新聞、テレビ、インターネット等の媒体の種類は問わない。中学校2年生として、日頃から広く社会に目を向けている生徒にとっては、書きやすい課題である。

② 出題の意図

報道されたニュースの中から興味や関心を持ったことを一つ取り上げさせたのは、書くことのテーマを絞らせる意味を持つ。自分の意見を書くことは、自分なりの視点に基づいて考えを広げさせることを目指している。そして、原稿用紙の正しい使い方に従って書くことは既習事項の確認である。

③ 結果の概要

原稿用紙の正しい使い方については、誤解している点が少ない。一番下のマスに拗音や促音を詰めて書き入れたり、一番上のマスに句読点を打ったりという誤りは毎年見られ、なかなか指導が徹底されない。文学的・説明的文章の授業に関わらず、たとえ200字程度でも原稿用紙に書かせる機会を与えては添削指導を繰り返すなど、原稿用紙の使い方の指導を根気強く行いながら、「原稿用紙アレルギー」等の作文嫌いを減らしていく必要がある。

また、「興味や関心を持ったことを一つ取り上げる」

という出題に対して、「地球温暖化」や「戦争」「いじめ」という大きなテーマを取り上げながら、具体的な報道内容に着目できずに一般的な「反対論」に終始した答案が少なくなかった。取り上げた具体的な内容を独自の視点で広げていくことを習慣付け、伝えたいことが明確になる文章を書かせたい。なお、「さいたま市立教育研究所平成17年度国語科研究委員会報告」に、原稿用紙の正しい使い方について、具体的な指導の取組が掲載されているので、御活用願いたい。

(2) 指導のポイント

○原稿用紙の正しい使い方を継続的に指導しましょう。

○適切な題材を選び、独自の視点を大切にしてい意見や感想を持つ習慣を付けさせましょう。

(1) 原稿用紙の正しい使い方を身に付けさせる

原稿用紙の正しい使い方は小学校における既習事項であるが、完全に身に付いていない生徒や、誤って覚えていることに気付いていない生徒も少なくない。

生徒の「書きたい」という気持ちを大切に、自由に書かせることも時には必要であるが、原稿用紙の正しい使い方を習得させることにより、生徒の書くことへの抵抗を軽減させることができるのではないだろうか。そこで、以下のような具体策を試みた。

書き直し作文…与えられた文章も、原稿用紙の正しい使い方によって書き直す。

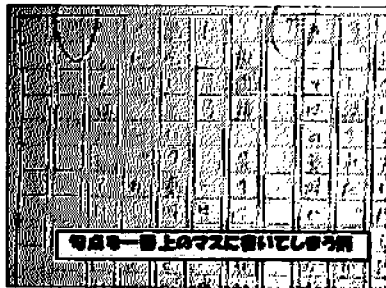
＜主な学習指導内容＞中学生に多く見られる誤りを正す＞

- ・書き出し及び改行後は1マスあけてから書き始める。
- ・句読点、促音「っ」、拗音「ゃ、ゅ、ょ」はマスの右上に書く。
- ・促音「っ」、拗音「ゃ、ゅ、ょ」も他の文字と同様に1マスに一字ずつ書く。
- ・句点、読点「、」を行の一番上に書かない。（最後のマスに文字と一緒に書く。）

教材には、かつて沼和市一斉テスト（第3学年で実施）で採用された作文の課題を使った。

まず、学習指導助に予備調査（約10分間で実施、約5分間で自己採点）をしたところ、正しく書き直すことができた生徒は11%にとどまった。

ところが、学習指導を展開すると生徒は、全く頭に入っていなかったこと、誤って覚えていたことを次々に発見し、前向きに原稿用紙の正しい使い方を身に付けようとしていた。これは、学習内容が生徒にとって全く興味のないものではなく、むしろ身に付けることに価値を見いだしていることを意味していると思われる。約1ヶ月後に文章内容を変えて再調査をしたところ、正しく書き直すことができた生徒の割合は約2.5倍の27%に達した。



（さいたま市立教育研究所平成17年度国語科研究委員会報告参照）

（http://www.saitama-city.ed.jp/kyoukaken/pdf/kokugo_jirei.pdf）

5 まとめ

【調査結果の概要】

<全 体>

- 設問に対して、文章中の表現を抽出して端的に答えることができる。
- 読み取ったことをもとにして、自分の考えをまとめて記述する力が不足している。

<読むこと>

- 本文の内容を整理してとらえることができる。
- 場面の状況までの読み取りにとどまってしまう、登場人物の心情まで踏み込んで読むことができていない傾向が見られる。
- 文章の展開に即して内容をとらえ、段落構成を正確にとらえさせる指導をする必要がある。
- 読み取ったことを自分の言葉で考えをまとめる記述式の問題を苦手とする傾向が見られる。

<書くこと>

- 与えられた条件に合致させて、書くことに意欲的に取り組める生徒が多い。
- 社会や生活をテーマとした文章を書く力が備わっている。
- 具体的な事例にしばることができるが、一般論に終始してしまい、自らの意見が焦点化されない傾向が見られる。

<言語事項>

- 日常生活でよく使う言葉は身に付いているが、耳慣れない言葉の正確な意味や敬語の使い方は定着していないようである。
- 小学校で学習する配当漢字は概ね定着していた。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

<読むこと>

- 「文章の展開に即して」内容を正確にとらえさせたい。また、叙述の中に根拠を明らかにした読み取りを徹底させたい。
- 書き手の思考や心情に迫り、自分の言葉で表現する力を身に付けさせたい。

<書くこと>

- 生活に根ざした題材で具体的な事例を挙げて、自分の考えや気持ちを明確に表現させたい。
- 指導者の指示を明確にし、日頃から書く機会を多く設定したい。
- 構成を意識した文章を書く力を身に付けさせたい。
- 指導法（採点法の改善）の工夫をし、生徒の書く意欲を高めたい。

<言語事項>

- 話や文章の中での語彙の働きについて理解させたい。
- 習得した語彙を国語の授業や日常生活で活用させたい。